

ずるいな、ずるいな

ここは、どうぶつ村むらの 小学校しょうがっこうです。中休みなかやすに
び出して ドッジボールを はじめました。

いぬくんが ボールを とって、ねこさんを
くるっと 回まわって よけたのですが、しっぽに
ボールが 目めがけて なげました。ねこさんは、
当たありました。でも、ね

こさんは 気きが つきません。

「ねこさん、当たあった、当たあった。」

と、いぬくんは 言いいました。ねこさんは、

「え、わたし 当たあって ないよ。」

と 言いいました。

すると、いぬくんチームの みんなが、

「しっぽ、しっぽ。しっぽに 当たあったよ。」



ずるいな、ずるいな

「そうだ、そうだ。当たったよ。」

と言いました。

(何も、そんなに言わなくたっていいじゃないの。……)

ねこさんは、しょんぼりして 外野に出ました。

外野に出たねこさんは、気をとり直して

ドッジボールをつづけました。すると、ねこさん

が力いっぱい投げたボールが、いぬくんの

大きなしっぽに当たりました。でも、いぬくん

は気がつきません。

「わーい。当たった、当たった。いぬくんに当た

った。」

ねこさんはよろこびました。

すると、いぬくんは、まっかな顔で、



「ぼくは、当たってないよ。何もかんじなかったよ。ねこさん、うそ ついちゃだめだよ。」

と言いました。いぬくんチームのみんなは、当たったところが 見えて いました。ところが、

「そうだ、そうだ。」

「いぬくんは、当たって ないぞ。」

と、ねこさんを せめるように 言いました。

(いくら 同じ チームだからって……。かちたいからって、ずるいな、ずるいな。) ねこさんは、心の 中で つぶやきました。

すると、いぬくんチームの うさぎさんが 言いました。

「わたしは、いぬくんの しっぽに ボールが 当たったのが 見えたよ。いぬくんは、アウトだよ。」

今まで いぬくんの み方を して いた いぬくんチームの みんなは、だまっ



て しまいました。

「え、本当^{ほんとう}に 当た^あって いたの。ごめんよ、ねこさん。」

と、いぬくんは、ねこさんに あやまりました。

ねこさんは、にっこり しました。

ドッジボールの つづきが はじまりました。

みんなは、また 元^{げん}気に ボールを なげたり とっ
たり して います。

ねこさんも、いぬくんも、うさぎさんも、みんな、と
ても 楽^{たの}しそうです。

(安倍 威 作)